

ブラーミニメクラヘビの 神奈川県横須賀市からの記録

内船俊樹*・天白牧夫**

Record of the Brahminy blind snake
Indotyphlops braminus (Daudin, 1803)
(Squamata: Typhlopidae)
from Yokosuka City, Miura Peninsula,
Kanagawa Prefecture

UCHIFUNE Toshiki * and TEMPAKU Makio**

キーワード：ブラーミニメクラヘビ，横須賀市，外
来生物

Key words: *Indotyphlops braminus*, flower pot
snake, Brahminy blind snake,
Yokosuka City, invasive species

ブラーミニメクラヘビ *Indotyphlops braminus*
(Daudin, 1803) を神奈川県南東部にある三浦半島の
横須賀市において採集したので報告する。

本種は，“世界で最も分布拡散したヘビ (Web サ
イト No. 1 より著者と訳)”とされ，世界中の熱帯・
亜熱帯地域に分布する (内山ほか，2002)。国内では，
かつて奄美大島以南の南西諸島に分布するとされて
いた (内田，1957) が，南西諸島全域や鹿児島県本
土部，伊豆諸島南部，小笠原諸島 (内山ほか，2002；
中間，2007) に分布が拡大，長崎県・静岡県の本
土部でも記録され (生物多様性センター，2001)，近年
では熊本県 (長尾，2018) や高知県 (Web サイト
No. 2 参照) でも記録が相次いでいる。

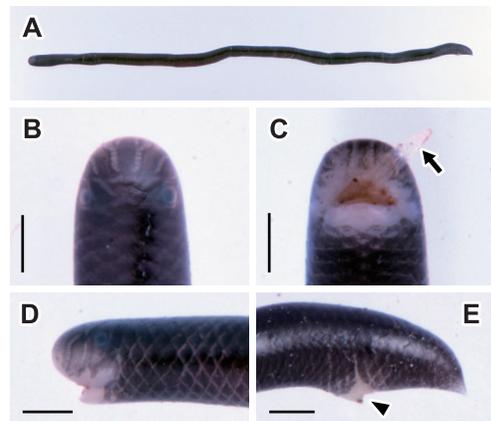
本種は，体長 16～22 cm，目が非常に退化して
半透明の鱗に覆われ，毒牙を欠き，他のヘビ類に見
られる腹板はなく，尾部は非常に短い (Taylor，
1922；ゴリス，1966)。地中生活に特化しており，
草地やサトウキビなどの圃場，林縁など日当たりの
よい乾燥した土壌を好み，石や倒木の下，側溝の落
ち葉溜まりなどで見つかる。ヘビ類で唯一 3 倍体の
核型をもち，メスのみで単為生殖する。主にアリや
シロアリなど小型昆虫類の卵や蛹のほか，ミミズ類
の卵も捕食するという (Taylor，1922；生物多様性

センター，2001；内山ほか，2002)。

採集場所は横須賀市南西部に位置する長井海の手
公園 (横須賀市長井 4 丁目)，採集日は 2020 年 9 月
29 日および 10 月 11 日である。いずれも園内販売所
建屋内の床面にいたところを同園職員によって発見
され，著者の一人，天白が採集ののち同定，自宅に
てシロアリなどを与え飼育下で観察を行った。採集
個体は 2 個体とも体長約 7 cm の幼蛇であり，体色
は黒色に近い暗褐色，腹面はやや明るく赤みを帯び
ていた。いずれも 11 月 5 日に飼育容器内での死亡
が確認され，状態の良い 1 個体を冷凍して横須賀市
自然・人文博物館へ運び，著者の一人，内船が撮影後，
エタノール液浸標本とした。

1ex.(幼蛇)，横須賀市長井 (長井海の手公園)，29.
IX. 2020，天白牧夫採集・横須賀市博物館収蔵
(YCM-RA597；第 1 図)。

前述した生態的な特徴から，本種は主に土に混入
するなどして人為的に分布を広げており，単為生殖
をおこなう点も分布拡大に有利に働くと考えられ
る。本種は“Brahminy blind snake”とともに“flower
pot snake”の英名をもち (Web サイト No. 1 参照)，
鉢物の腐葉土・土壌とともに移動することが知られ



第 1 図 ブラーミニメクラヘビ *Indotyphlops braminus* の
採集個体 (YCM-RA597)。死亡後冷凍ののち解凍
した状態で撮影。A: 全体背面。左端が頭部。全
長 68 mm。B-D: 頭部 (B: 背面，C: 腹面，D:
左側面)。矢印は舌。E: 尾部左側面。矢じりは総
排泄腔。B-E のスケールは 1 mm。いずれも内船
(2014a) に沿って 105 mm マクロレンズで撮影。

* 横須賀市自然・人文博物館 〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台 95

** NPO 法人三浦半島生物多様性保全 〒238-0033 神奈川県横須賀市阿部倉 9-3

原稿受付 2020 年 11 月 13 日 横須賀市博物館業績 第 757 号

ている。採集場所の公園では、園芸植物の導入を行っていることから、腐葉土・土壌に伴う本種の園内への移入が考えられた。一方、採集環境は屋内であり、当該建屋は洋風の土間コンクリート床で、出入口など周辺の多くはコンクリート等によって隙間なく舗装がされており、建屋の背面のみ短く刈り込まれたシバ型草地在隣接していた。このような採集環境の下、屋内の同じ場所で別の日に1個体ずつが発見されたことの背景について、1) 周辺の花壇や鉢物から建物への侵入や、2) 屋外から運び入れた資材や鉢植えへの随伴、の2つの可能性を挙げる。1) については、前述の採集に際して、建屋周辺の落ち葉溜まりや鉢植えの下などを探索したものの、直接的な証拠となる追加個体を得ることはできなかったが、2個体目が発見された10月11日は、前日までの3日間に計150 mm程度の降水が近隣で観測されている(Webサイト No. 3参照: 三浦気象観測所 [三浦市初声町下宮田])。本種は雨後の舗装道路等の上でミミズのように発見されることが知られている(Webサイト No. 1参照) ことから、建物の出入口もしくは壁や床の割れ目から屋内へ侵入した可能性は捨てきれない。2) については、園外から直接的に発見場所の建屋内へ運び込まれたケースと、園内に保管もしくは設置されていた資材や鉢植えが建屋内へ運び込まれたケースの二つが考えられる。後者のケースでは、1) で述べた可能性とともに、既に園内に移入し生息している可能性を高めることになるため、今後も園内での追加採集に注意を払う必要がある。横須賀市内では鉢物や植栽に伴う動物移入の例として、アマミサソリモドキ *Tyopeltis stimponii* (Wood, 1862) を挙げるができる(内船, 2014b; 2017)。本報とは別の場所であり、同所的な2件2個体の採集・発見記録であったが、その2件の間が約3年も空いたことから、同地での定着の可能性は低いと判断し現在に至っている。

本種の南西諸島での繁殖期は6月中旬~7月中旬、直径1~2 cmの細長い卵を1~6個産下し、約50日の卵期を経て体長約6 cmの幼蛇が孵化する(内山ほか, 2002; 生物多様性センター, 2001)。本種の成熟までの期間は分かっていないが、採集個体はいずれもその採集時期と体長から幼蛇、さらに言えば当年度の孵化個体であると推測される。しかし、前述の発見に至る背景で推測したとおり、園内で産卵・孵化した個体であるかは不明である。

長井海の手公園(指定管理者: 長井海の手パートナーズ)の職員の皆様には採集にあたり便宜を図っていただいた。横須賀市役所環境政策部自然環境共生課の佐々木太郎職員ならびに同部公園管理課の宇田川友輝職員には、採集や環境調査、本稿作成に際して調整いただいた。横須賀市自然・人文博物館の萩原清司学芸員には標本の登録・収蔵に協力いただいた。各位に感謝申し上げる。

引用文献

- ゴリス リチャード 1966. 日本の爬虫類. 127 ページ. 小学館.
- 長尾圭祐 2018. プラーミニメクラヘビの熊本県初記録. 九州両生爬虫類研究会誌, (9): 12-13.
- 中間 弘 2007. プラーミニメクラヘビの分布について. 鹿児島県立博物館研究報告, (26): 103-104.
- 環境省生物多様性センター 2001. 生物多様性調査 動物分布調査 (両生類・爬虫類) 報告書. 264 ページ. 環境省自然環境局生物多様性センター.
- Taylor E. H. 1922. The snakes of the Philippine Islands. 312pp. + 37pls. Department of agriculture and natural resources, Bureau of science, Manila.
- 内田清之助 1957. 原色動物大圖鑑 I. 346 + 64 ページ. 北隆館.
- 内船俊樹 2014a. タマムシ類の撮影における照明法について. 横須賀市博研報 (自然), (61): 35-36.
- 内船俊樹 2014b. 横須賀市長坂で捕獲されたサソリモドキ. かまくらちょう, (85): 25-26.
- 内船俊樹 2017. 横須賀市長坂のサソリモドキの続報. かまくらちょう, (91): 39-40.
- 内山りゅう・前田憲男・沼田研見・関慎太郎 2002. 決定版 日本の両生爬虫類. 335 ページ. 平凡社.
- (Web サイト)
- No. 1: "Brahmy Blind Blind Snake, Flower Pot Snake". Florida State Museum of Natural History. <http://www.floridamuseum.ufl.edu/herpetology/fl-snakes/list/indotyphlops-braminus/> (2020年11月1日閲覧).
- No. 2: 「四国産爬虫類目録」. 佐藤重穂. <http://cse.ffpri.affrc.go.jp/shigeho/Shikoku-Hachurui.htm> (2020年11月1日閲覧).
- No. 3: 「過去の気象データ検索」. 気象庁. <http://www.jma.go.jp/obd/stats/etrn/> (2020年11月1日閲覧).